

(1) 第1回会議

■ 令和8年度（2026年度）北海道美唄養護学校 第1回学校運営協議会
○ 日時 令和8年（2026年）7月10日（金） 10時00分～11時50分
場所 北海道美唄養護学校 会議室
ア 委員の紹介（自己紹介）
イ 令和8年度（2026年度）学校運営方針について（校長）
・ 先日の石川県立小松特別支援学校の飛び出し事故を受けて
～過去にも多く飛び出しからの行方不明や死亡事故の発生
これらの事故を教訓に命の大切さや人権擁護を重んじた学校経営を進める。
・ 児童生徒の学び
高すぎず低すぎない、少し頑張れば乗り越えられる課題設定を大切にしたい。
・ 学校教育目標の改定
児童生徒の力を伸ばすことや育てるなど教職員向けの目標となっていたが、今回は
児童生徒の視点からという学校教育目標に転換している。
これまで長文の目標が多かったが、短いフレーズで意識しやすい目標とした。
・ 目指す学校像について
安全安心を大切にした上で、児童生徒が学びを楽しみ、保護者が安心して通わせる
ことができる学校を目指している。そして、児童生徒が学校で学んだことが卒業後の
生活で生きる学びを推進する。
・ 目指す教職員像について
各学部や寄宿舎で、段階に応じた学校づくりを推進する。
ウ 校内視察
・ 小学部低学年ブロック…体育
・ 小学部高学年ブロック…生活単元学習「旅行的行事 事後学習」
・ 中学部…作業学習
・ 寄宿舎…中学部作業学習「清掃班」・寄宿舎内見学
・ 高等部…生活単元学習「現場実習事後学習」
エ 意見交換・熟議等
【ICT機器の活用について】
○ 一人一段端末が整い、AIも活用される時代となったが、有効な視覚支援となる反面
過度な依存に陥ってしまう懸念があるがどのように対応しているのか。
・ 高等部ではBYODで第1学年は2学期にそろえることとなる。持ち帰るのは卒業時
で、情報関係のルールを学びつつ、調べ学習で活用している。
反面、自主通学している生徒はスマートフォンを所持していて、通常の学校と同
様にSNSでもめることがたびたびある。生徒指導主事による指導で、生徒自身に
ルールを決めさせ、自身で守るように指導している。
・ 中学部は使用できるアプリを制限し、学習アプリのみ使用するなどして対応して
いる。旅行的行事の事前学習での調べ学習や食事のメニューを選ぶなどの活用を進
めている。実態としてはスマートフォンを使用する実態ではないが想定しておくこ
とは必要と考えている。

- ・ 小学部では、学習目的に使用することに慣れていないので、目的に沿った使用に慣れるような学びを進めている。スクロールなど非常に上手な児童が多く、家庭での使用は余暇としての使用が多く、あまりルールを重要視していない様子が見える。

【知的障がい教育について】

- ・ 知的障がい者で2歳下の知人がいる。養護学校では知的障がい者の今後の生き方の下地づくり、生きる力を育てていることが理解できた。周りの友人と同様に接してきているが、本人や保護者にどのように指導を進めていくのかを理解してもらうために配慮すべきことはどのようなことか。
- 本人や保護者がどの程度障がいを受容しているのか次第で、伝える情報量のさじ加減を図る必要はある。受容の程度も勘案した目標を立てないと学校に対して拒否感をもたれてしまうこともある。

○ 校長謝辞・閉会